

気づき、考え、実行する子どもの育成

～青少年赤十字活動の実践を通して～

1 研究主題

変化の激しい先行き不透明な時代、「生きる力」の育成が強く求められている。とりわけ、個人主義や経済優先の風潮が強まり、人間関係の希薄化が進む今日において、「平和的で民主的な国家・社会の形成者として必要な資質」を養うためには、子ども達に社会の一員としての自覚と行動力を身に付けさせる必要がある。そこで、本校では、地域との交流を重視して、福祉・奉仕等の活動に積極的に取り組み、自らも社会の一員として、進んで考え、生き生きと活動する児童の姿を追求し、青少年赤十字の活動が目指す「自ら気がつき、考え、実践する」ことのできる児童の育成につなげたいと考え、本研究主題を設定した。以下、これまでの実践を紹介する。

2 主な活動の計画

- 4月 研究計画立案
ボランティア清掃
花いっぱい運動・栽培活動開始（生産的活動：年間）
- 5月 緑の募金（福祉教育）
救命救急・ASUKAモデル研修（人命救助）
あいさつ運動開始（交流：年間）
- 6月 地域清掃開始（勤労奉仕：年間）
つばさっ子まつり（交流活動）
救命救急6年授業（人命救助）
- 7・8月 防災訓練お泊まり会（交流活動）
中山道宮原まつり参加（交流活動）
日進七夕まつり参加（交流活動）
- 9月 AED・心肺蘇生法授業（人命救助）
- 11月 赤い羽根募金活動（福祉教育）
- 12月 餅つき大会（交流活動）
- 1月 書き損じはがき寄付活動・老人ホーム慰問（福祉教育・交流）
- 2月 研究のまとめと考察
- 3月 次年度の研究方針の検討

交流



学校ぐるみで地域祭りに参加(職員は法被を着て一緒に神輿担ぎに参加)



地域七夕祭り参加(H28 地域の方と熊本支援テーマの飾りづくり→校内展示→祭り作品展示・北区長賞受賞)



あいさつ運動(縦割りグループ・小中合同・学級)



親子餅つき会(おやじの会主催:校庭)



防災訓練・親子お泊り会(おやじの会主催:体育館)

勤労・生産・福祉



花や野菜などの栽培



世話した花を駅や交番に寄贈



福祉体験・施設訪問



地域歩道のボランティア清掃



福祉・義援金等の募金活動

①

ひさいしゃ
熊本の被災者の皆さんへ

つばさ小の支援募金活動が新聞で紹介されました

被災された方々が、早く元の生活に戻れるといいですね。

意識を高める掲示
①児童が発案して行った被災地支援募金
②青少年赤十字の啓発



②

人権・生命尊重・人命救助



救命救急等のシミュレーション (AED 使用 ASUKA モデル)



アナフィラキシーショック対応研修 (エビペン使用)



相談員による「命の支え合い」授業



中学校体育教師による救命救急授業

意識を高める掲示

- ① よい行為を紹介し合う「つばさの木」
- ② 悩みや問題を共有し、アドバイスを求める「相談コーナー」
- ③ 「心を潤す4つの言葉」の啓発
- ④ 地域ボランティアの

